# 産業と工業教育

愛知工業大学　学長　後藤　淳

この技報の編集委員の一人である知人から「巻頭言を書いてくれ」との突然の申し入れがあり、いささか当惑した次第であるが、愛知電機には多くの卒業生が厄介になっており、かつ色々と関係も深いので、「窮鼠猫をかむ」の心境で、少々駄文を弄することとした。

今から30余年前、恩師篠原先生の下で、薫陶を受け、その時学んだ事柄と本学における最近の教授内容（特に電気系学科に関して）を比較する時、余りの変化に驚かされる昨今である。飢餓の中からの戦後復興、高度成長、石油危機、情報社会、高度技術、と新しい波は次から次へと我々を襲い、そのような中で「学校教育はどうあるべきか」特に、「工業教育は如何にあるべきか」については、摸索の連続であった。幸い、多くの先達や先輩諸賢の御指導に恵まれて、多少とも時代の要求に対応して来たものと自認する次第である。

名古屋電気学園における教育理念は、時代の最先端を行く研究者を育てることでなく、新しい時代の変化を謙虚に受け止め、その中へ柔軟に、しかも積極的に突き進んで行く若い人達を世に送り出す所にある。既に発行された「愛知電機技報」の中に、本学園の卒業生の名前による技術発表を見る時、私にとっては大変なつかしく、かつ喜ばしいことである。

自動車をはじめ、工作機械や多くの商品を生産する製造業の集中する中部地区にあって、当愛知工業大学も地域の発展に貢献して来たと思う。現在の大学は、昔日の象牙の塔でなく、生き生きとした社会と共にある。そこには武器のない闘いが繰り拡げられている。特に技術による競争は他言を要すまい。

また、国際的な諸問題は、大量生産、大量販売の困難さを示すものであろう。我々としては、海外の大学とも広く手を結び、世界に眼を向けた人間味のある人を送り出す義務があり、これによって、地域や国家の発展に寄与することになると思う。衣食の足りた現在の社会の中でも、今後ますます各方面の技術は進歩し、より人類の幸福を希求して進展して行くであろう。本学の建学の精神である「自由、愛、正義」に裏打ちされた若い人達が彼等の仲間と共に21世紀に向かって努力を続けて行くに違いない。情報産業と、新素材、ハイテク関係の記事が毎日載らない新聞はない。新しい技術が開発されても、我々の身近な物にならなければ意味はない。幸い当地区に「広義における技術レベルの向上」を目的とした懇談会がある。それは産、学、行政の強力な協調の下に、研究開発の機能を高めるために、自由に意見を交換する会合である。このような公的な会合を介して、広い意味において地域の発展に貢献し、そして、より多く本学の卒業生を採用して頂く機会と場所を拡げたいと思う。

（後藤学長は学校法人名古屋電気学園の理事長を兼任しておられます。）